

原著

## 徒手医学セミナー初回受講生 に対するアンケート調査

上前 拓巳<sup>1)</sup>

### 要 約

[目的]徒手医学講習会の初回セミナー受講生に対し、次のコースへの意欲や関心、講習会の改善点を明確にする事である。[対象]中部会場にて行われた初回セミナーの受講生 56 名とした。[方法]受講生にアンケート用紙を配布し、講習会終了後に回収した。Pearson の相関係数を用いて各項目の相関の強さを検討した。[結果] 次のコースへの意欲と教材、意欲と満足度の間では有意な相関が確認でき、理解度と満足度との間で有意な強い相関が確認できた。自由記述での回答では、各項目において肯定的な意見や、改善に繋がると思われる意見や要望が確認できた。[結語]次のコース受講に繋げるためには理解度や満足度を高める事が重要であり、その為には教材や講義内容の更なる改善が必要と考えた。

**Key Word :** 徒手医学 アンケート調査、徒手医学セミナー

### Abstract

The purpose was to make the improvement points of the next will to the course, interest and workshop clear to an empty hands medical first time seminar member of a class, and a target made it 56 members of a class of a seminar the first time in the central part meeting place. In the method, questionnaires were distributed to the students and the degree of correlation was examined using the correlation coefficient of Pearson after collection. As for the result, a significant correlation was confirmed between motivation to the next course, teaching materials and satisfaction level, and a strong correlation between comprehension degree and satisfaction degree was confirmed. In the reply with free description, positive opinions and negative opinions and requests were confirmed in each item. In order to connect to the next course, it is important to increase understanding degree and satisfaction level, and to enhance teaching materials and content of lecture. For that purpose, we thought that further improvement of teaching materials and content of lecture was necessary.

**Key Word :** Manual Medicine , Questionnaire survey , Manual medical seminar

1) 蒲郡厚生館病院 病院ダイケア科 理学療法士  
受付日 2017 年 9 月 7 日 受理日 2017 年 11 月 11 日

## はじめに

徒手医学にまつわる内容を取り扱っている講習会の1つに、理学療法士や作業療法士、柔道整復師等を対象とした「三学会合同標準徒手医学講習会」(以下、標準徒手医学講習会)がある。標準徒手医学講習会は、世界中の徒手医学の概念を専門家が集い、標準的で洗練された手技を整理あるいは改変し、多くの議論と時間を費やして身体部位ごとに体系化させた講座であり、2009年からこの講座が開講されている。また2017年の時点では受講生は2500人を超えるセラピストが受講しており、全国的に展開されている。

しかし当講習会の受講生のうち、2016年度の初回コースを受講して次コースの受講へと繋がった受講生の割合は20%であり、2015年度の32%と比較し減少傾向となっている。

今回は、初回コース受講から次コース受講に繋がる受講生を増やす事や、講習会の内容や質の向上を図る事、当講習会に関する受講生のニーズ及び次コースへの意欲・関心がどれほどあるのか等明らかにする為、当研究を行った。

## 対象

2017年6月から8月にかけて開催された標準徒手医学講習会入門コースの受講者56名(6月名古屋会場30名、7月豊橋会場11名、8月名古屋会場15名)を対象とした。

## 方法

アンケート調査用紙は付表1に示した。

主に、アンケート調査には受講生の講義の理解度、満足度、費用、教材、時間、初級コースの受講意欲を Visual Analogue Scale(以下、VAS)を用いて数値化し、理由や要望について任意回答で記入する形式で行った。平均値±標準偏差、最大値、最小値を算出し、アンケート各項目で相関分析を行った。相関分析には statcel4 を使用して Pearson の相関係数を算出し、相関の強さ及び有意性について検定を行った。

当研究の除外基準は、アンケートの回答において未回答等、不備がある物、講習会中に提出されなかった物とした。

当アンケート調査は、標準徒手医学会の許可を頂き、受講生に対しては口頭で研究論文にし、関連する会議や学会の場で報告、発表する事を口頭で説明し、了承を得て実施した。

## 結果

アンケートの記入及び回収率は講習会中に行い、回収率は全体で96.4%(6月96.6%、7月100%、8月93.3%)であり54名の受講生の記入したアンケートが有効回答であった。受講者の内訳として、理学療法士が44名、作業療法士が8名、柔道整復師が2名であった。また、アンケートに回答された受講生のうち、徒手療法未経験者が42人、経験者が12名であった。聴取を行った項目の数値に関しては表1、各調査項目の相関行列を表2に記載し、受講生の経験年数別の内訳を表3、勤務形態別の内訳を表4に記載した。

表 1 各調査項目の平均点

(単位: mm)

項目	理解度	満足度	費用	教材	講義時間	意欲
M±SD	79.1±12.3	79.9±14.5	62.7±21.5	73.6±19.1	56.1±14.9	73.2±18.1
最大値	100	100	100	100	100	100
最小値	50	46	4	17	25	34

表 2 各調査項目の相関行列

項目	理解度	満足度	費用	教材	講義時間	意欲
理解度	1.00					
満足度	0.82**	1.00				
費用	0.17	0.32*	1.00			
教材	0.51**	0.65**	0.46*	1.00		
講義時間	0.08	0.09	0.33**	0.20	1.00	
意欲	0.38**	0.51**	0.36**	0.51**	0.11	1.00

(\*p<0.05) (\*\*p<0.01)

表 3 経験年数別受講生人数

(単位: 人)

経験年数	人数
1年目	15
2年目	8
3年目	6
4年目	3
5年目	10
6年目	4
7年目	2
8年目	2
9年目	1
10年目以上	3

n=54

表 4 勤務形態別受講生人数

(単位: 人)

急性期	14
回復期	6
維持期	19
複数回答	15

n=54

表 5 理解度に関するコメント(任意回答)

項目	回答数
<b>【肯定的な意見(42.6%)】</b>	23
基礎から実技含め教えてくれた	5
実技が多くて良かった。	4
テキストが分かり易かった	3
説明後の実技の流れが分かり易い	3
説明が丁寧で分かり易かった	2
実技が多いため理解しやすかった	2
解説が分かりやすい	1
大体わかった	1
細かく見て回ってくれたから良い	1
実技を交えての説明が分かり易い	1
<b>【否定的な意見・要望(20.4%)】</b>	11
生理学的な内容も含めてほしい	2
説明が難しく感じた	2
どんな疾患に有効か教えてほしい	1
知識不足もあり分かりにくい	1
問診の書き方が分かりづらい	1
後半の説明が分かりにくかった	1
治療台があればイメージしやすい	1
説明が雑に感じた	1
エビデンスも提示してほしかった	1
<b>【無回答(37.0%)】</b>	20

n=54

表 6 満足度に対するコメント(任意回答)

項目	回答数
<b>【肯定的な意見(37.0%)】</b>	20
徒手療法に興味を持つことが出来た	2
質問の対応が丁寧	2
すぐ臨床応用できる内容で良かった	2
分かりやすく満足している	1
徒手療法の深さを学べて良かった	1
手技が分かりやすい	1
臨床の疑問を解決できてよかった	1
日頃の復習、確認ができた	1
今後の参考になった	1
実技と同時に教えてくれたのが良い	1
適応の方がいれば使えそうだから	1
他のコースも受けたくなくなった	1
少人数で聞きやすかった	1
問診や視診、手技が勉強になった	1
新しい発見もあったからよかった	1
実技が多くて良かった	1
各部位別のコースも興味を持った	1
<b>【否定的な意見・要望(16.7%)】</b>	9
下肢の内容もやってほしかった。	3
進め方が効率悪い	2
目的や意味をしっかりと示してほしい	1
想像していたより触診が少ない	1
知識不足もあり分かりにくかった	1
実技が少ない	1
<b>【無回答(46.3%)】</b>	25

n=54

表 7 教材に対するコメント(任意回答)

項目	回答数
<b>【肯定的な意見(38.9%)】</b>	21
図や写真が多く、イメージしやすい	6
図や写真が見やすかった	3
カラーで見やすかった	3
関節の動き、実技があり見やすい	2
普通	2
詳しく書いてあってよかった	1
見やすかった	1
分かり易かった	1
簡単に書いてあって分かり易い	1
理論が分かり易かった	1
<b>【否定的な意見・要望(3.7%)】</b>	2
付け加えて書くメモも必要と思った	1
もっと解剖学的内容が欲しい	1
<b>【無回答(57.4%)】</b>	31

n=54

表 8 意欲に関する意見(任意回答)

項目	回答数
<b>【肯定的な意見(40.7%)】</b>	22
もっと知識が必要だと感じたから	6
臨床にすぐ実践できそうだから	4
機会があれば受講したい	2
下肢のコースに興味がある。	2
なるべく受けていきたい	2
運動器疾患に興味あるから	2
上肢、頸部コースを受講してみたい	1
信頼関係作りに活かせると思った	1
治療の幅が広がると思ったから	1
仲間と受講すれば振り返りやすい	1
<b>【否定的意見・要望(13.0%)】</b>	7
金額が高い、値下げしてほしい	3
悩んでいる	2
初級コースの魅力が分からなかった	1
会場の面でつらいところがある	1
<b>【無回答(46.3%)】</b>	25

n=54

表 9 講習会に対する要望(任意回答)

項目	回答数
<b>【回答有り(20.4%)】</b>	
下肢の内容も勉強したかった	2
料金や頻度を検討してほしい	2
自宅から近い会場で行ってほしい	2
なるべく日曜日開講にしてほしい	1
HPに詳しく書いてほしい	1
初級上級も同じくらいの値段が良い	1
ROM制限さらに細くしてほしい	1
機能解剖の講義を増やしてほしい	1
<b>【無回答(79.6%)】</b>	43

n=54

### 1. 講義の理解度及び満足度

講義の理解度は  $79.1 \pm 12.3\text{mm}$  であり、講義の満足度は  $79.9 \pm 14.5\text{mm}$  であった(表 1)。また、統計解析では理解度及び満足度の相関について、 $r=0.82(p<0.01)$ との有意な強い相関関係があることが確認できた(表 2)。

受講生より得られた意見としては、教材やスタッフに対する肯定的な意見や、説明が丁寧であり、実技が多くてすぐに臨床に活用できる内容でとても勉強になった等、講習会の内容に対する肯定的な意見が得られた。また、改善を求める意見としては、触診の講義の量が少ない、説明が雑に感じた等、講義や指導内容に関して改善を求める意見や、エビデンスの提示やどんな疾患に有効なのかを求める意見や、下肢の内容も取り扱ってほしい等、否定的な意見や要望が理解度では全体の 20.4%、満足度では全体の 16.7%であった。また無回答であったものは理解度では全体の 37.0%、満足度では 46.3%であった(表 5, 表 6)。

### 2. 講習会費用について

講習会の費用に関しては  $62.7 \pm 21.5\text{mm}$  であった(表 1)。初回コースの料金設定に関しては特に肯定的意見や否定的意見は見られなかった。初回コースにおける料金設定に関しては普通であるという結果となった。

### 3. 教材について

教材については、 $73.6 \pm 19.1\text{mm}$  であった(表 1)。また、講義の理解度との相関及び教材との相関に関しては  $r=0.51(p<0.01)$ ,

満足度との相関に関しては  $r=0.65(p<0.01)$  と、いずれも有意な相関があることが確認できた(表 2)。

意見としては、資料がカラーであり図や表が見やすかった。イラストも多くて分かりやすくまとめられた資料で良かった等教材に関して肯定的な意見、要望が全体のうち 42.6%であった。また教材に対する否定的な意見は 3.7%、無回答であったものは 57.4%であった(表 7)。

### 4. 講義時間

講義時間の長さについては、 $56.1 \pm 14.9\text{mm}$  であった(表 1)。講義時間に関する意見、要望は見られなかった。時間の長さに関しては普通であるという結果となった。

### 5. 次のコースへの意欲

次コースの受講意欲に関しては  $73.2 \pm 18.1\text{mm}$  であった(表 1)。また、コースに対する意欲と理解度との相関関係に関しては  $r=0.38(p<0.01)$ と有意な弱い相関関係、満足度及び教材との間では、 $r=0.51(p<0.01)$ と有意な相関関係がある事が確認できた(表 2)。

受講生より得られた意見としては、特に理学療法士からは下肢疾患を診ることが多いから下肢コースを受講したいといった意見や、今後臨床にもしっかり応用できそう、さらに自分の臨床の能力を高めていきたいから受講したい等、次のコースへの意欲に関して肯定的な意見が全体の 40.7%であった。

また次以降のコースでは具体的にどのよ

うな内容を取り扱っているのかが分からない為、魅力を感じないといった意見や、初回コースに関しては良いが、今後次のコースを受講していく事を考えると高く感じるといった内容の回答や、値段改定や割引を求める意見等、否定的な意見や要望が全体の13.0%であった。また無回答であったものは、全体の46.3%であった(表8)。

## 6. 講習会に対する要望

講習会の要望については表9に記載した。

### 考 察

今回のアンケート調査より、次コースに対する意欲において、割合として多くの受講生が興味を示したと思われる。また次のコースへの意欲と満足度、及び意欲と教材との間において、有意な相関関係があることが確認できた。このことから満足度、および教材の質を高めることがコース受講の継続率の改善に重要であると考えられた。自由記載から得られた意見としては、初級コースに進んでみたいといった意見や、受講したいが金銭的な面や日程の面で難しい、受講しようとは思わない等様々な意見が得られた。

教材については、理解度及び満足度の間においても有意な相関関係にある為、教材の質の向上により結果として、理解度と満足度の向上にもつながると考えられた。教材についての自由回答では、図や写真が多く分かり易い、実際のイメージしやすい、カラーで分かり易い等の意見が得られた。これらの回答は今後の教材の改善のための

参考になると考えられた。

今回の当講習会の理解度、満足度については有意な強い相関が得られ、点数としてはどちらも約8割程度であった。自由回答からは講習会の内容が基礎的な内容も取り扱っている事や実技が中心である事、スタッフの丁寧な対応や、すぐに臨床に応用ができる、新しい発見があった等の肯定的な意見があり、点数としても良好な結果であった。しかし改善を求める意見として、一部の受講生において講義の内容が分かりづらい、講義の説明が難しく感じたという意見もあり、満足度や理解度において不十分であった受講生もいた事が伺えた。また触診の講義量を増やして欲しいという意見や、下肢の内容も実技体験の枠で取り扱ってほしいといった内容や、生理学的な内容の記載やエビデンスの提示、どんな疾患に有効なのか等も求める意見があり、さらなる改善の余地を伺わせた。特に触診は、臨床の場では疼痛あるいは可動域制限の原因部位を特定するために行われ、運動器疾患の多くは痛みや可動域制限を伴っているといわれている<sup>1)</sup>。実際の臨床の現場でも、下肢の疾患を経験することや、痛みを伴っている事も多い。より実践に活かせるよう、初回コースの内容に於いても、触診の講義内容の充実や下肢の内容を含めた講義は必要と考えた。

板場<sup>2)</sup>は、対象者にとって最適な治療を提供する為の実践的手法である、EBM(evidence based medicine)が注目され、理学療法の世界においても科学的効果根拠に基づいた理学療法の確立へ向けた動

きが活発化しており、臨床理学療法の根幹であると述べている。また木村<sup>3)</sup>は、臨床現場が求めている多様な臨床問題に関連した質の高いエビデンスを使えるようにする為には「エビデンスをつくる」事と、「エビデンスを伝える」という取り組みを実施していく事が課題なると述べている。当講習会に参加された受講生の多くは、自己の臨床の質を更に高める為に受講されている方が多い事を考慮すると、今後は講習会の内容に於いて、より実践に繋がるようにする為に、当講習会に扱っている内容に関するエビデンスの提示や、実際の臨床の場面での応用方法に関する内容は必要であると考えた。また、教材及び講義の内容に於いてもこれらの触診に関する内容やエビデンスに纏わる内容も含めることで、更に質を高め、受講生の理解度や満足度の向上にも繋げる事が出来ると考えた。

今回、講習会の講義時間の長さについては、解釈の方法として長く感じた程、受講生が退屈に感じた事とし低評価、短く感じた程、内容が充実しており講義があつという間に感じたとし高評価として、統計を行った。結果、時間の長さにおいて、全体としては普通であったという結果となった。今回のアンケート調査において、解釈の仕方によっては、必ずしも短く感じた程良いと言い切れない部分もあると思われる部分もあり、評価尺度の用い方として、不備もあるのではないかとと思われる部分があつた。今後、調査を継続して行っていく際、時間の尺度を用いるときは長すぎるもしくは短すぎると感じた程、低評価とし、長さとし

て適していると感じた程、高評価とするよう修正を行う必要があると考えた。

また、今回の自由記載によるアンケート回答からは、意欲の面では金銭的な要素で受講を考えているといった意見や、コースの魅力が分からないといった次のコースに纏わる内容の意見が確認できた為、今後はより詳細にこれらの調査を行っていく必要があると考えた。

### まとめ

アンケート調査より初回コースの内容に関しては理解、満足できたとする受講生の割合として多かつたが、更なる講習会の質や内容の向上も臨める意見も得られた。

今回のアンケート調査では、次のコースへの受講に繋げるためには理解度と満足度を高めることが重要であり、それに向けては講義や教材の内容の充実が重要であることが分かった。まずは講習会の内容に於いて、少しでも多くの受講生に満足して貰える様にこれらの質の向上を目指していく必要があると考えた。

### 参考文献

- 1)安藤 正志:運動器疾患の徒手的功能診断手順.日本スポーツリハビリテーション学会.2013;2:19-22.
- 2)板場 英行:関節機能障害に対する徒手のアプローチのエビデンス-脊椎を中心に-.理学療法.2010;27(3).407-420.
- 3)木村 貞治:EBPT の概念と実践方法.理学療法.2008;25(3).497-511.

付表 1 アンケート調査用紙

**三学会合同標準徒手医学講習会アンケート (中部会場) 入門コース受講生向け**

職種： PT ・ OT ・ その他( )

1. 経験年数 年目

2. あなたは、主に何期の患者様の治療をされていますか？以下の選択肢に該当する項目に○を書いて下さい。(複数選択可)

【選択肢】

A. 急性期 B. 回復期 C. 維持期

3. 徒手療法を過去に学んだことありますか？

A. ある B. ない

【あると答えた人 何を学びましたか？】

・以下からは、アナログスケールを用いて回答をお願いします。

4. 本日の講義のわかりやすさは何点くらいでしたか？以下の線に、垂直な線を入れてください。



左端：非常に分かりにくい  
右端：非常に分かりやすい。

【理由】

5. 当講習会の満足度は何点くらいでしたか？以下の線に、垂直な線を入れてください。



左端：非常に不満である。  
右端：非常に満足している。

【理由】

6. 講習会費は、どのように感じましたか。以下の線に、垂直な線を入れてください。



左端：非常に高く感じた  
右端：非常に安く感じた

7. 当講習会にて使用した教材のわかりやすさはどうでしたか？以下の垂直な線に点を入れてください。



左端：非常に分かりにくい  
右端：非常に分かりやすい

【理由】

8. 当講習会の講習時間の長さはどうでしたか。以下の線に垂直な線を入れてください。



左端：非常に長く感じた  
右端：非常に短く感じた

9. 今後、初級コースを受講していきたいと思えますか？以下の線に垂直な線を入れてください。



右端：積極的に受講していきたい。  
左端：受講したいとは思わない。

【選んだ理由】

10. 本日の講習会に対して、要望等がありますでしょうか。自由に記載して下さい。無い場合は「なし」でも構いません。

ご協力ありがとうございました！